

# 校長先生の初恋物語

## 第50話 とっくんなんて大嫌い

「ジャイアンは悪くない。」  
とっくんはたしかに、そう言っ  
てしまったんです。みんながお  
どろいていました。きのこ君の  
絵をだいなしにして、きのこ君  
をびしょぬれにして、ここまで  
ひどいことしたジャイアンなの  
に、「悪くない。」なんて言っ  
たらみんなおどろくに決まっ  
てます。



足長君が真っ先にとっくんのところに来ました。  
「とっくん、本気じゃないよねえ。ジャイアンは悪くないな  
んて、本気で言っていないでしょ。とっくん、このごろおかし  
いよ。どうしちゃったの。」

きんに君もおこった顔で言いました。  
「ジャイアンがやってることはいじめだちょーっ。とっくん  
はついにいじめまでいっていうのかー。どうしちゃった  
んだよ。」

そして・・・、ダンプさんまで、  
「とっくんって、そんなにひどい人だとは思わなかった。と  
っくんとは、もうぜっこうよ。とっくんなんて、大嫌い。」  
クラスみんながいっせいにとっくんをせめてきました。  
みんなが言ったことは同じ言葉です。

「もう友達じゃない。」  
によろひげ先生は、さすがにとっく  
んのことを心配してくれました。  
「としのり分かるだろ。ジャイアンが  
したことは、どう考えてもいけないこ  
とだぞ。としのりだって、悪いことだ  
って分かっているんだろ。」  
ちん君は、いためた背中をさすりなが  
ら言ってくれました。

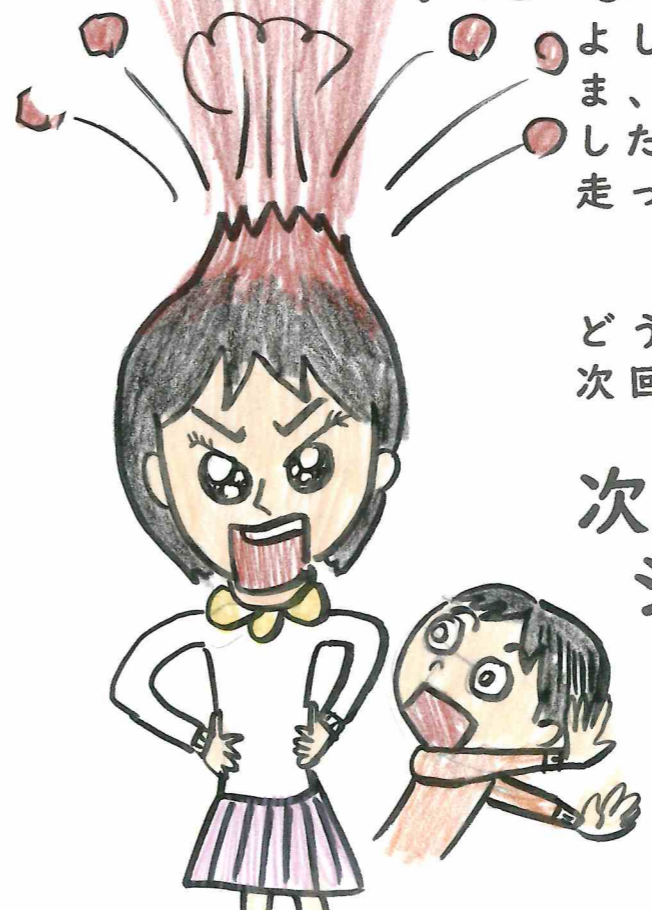


「みんな、とっくんは本気なわけ  
ないじゃん。とっくんは、じょう  
だんがすきだから、今言ったこと  
もじょうだんなんだよ。まったく  
とっくん、びっくりさせないでよ。  
そうでしょ、とっくん。ねえ、と  
っくん、何か言ってよ。」  
ちん君がそうかばって来て、そ  
のあとみんなは、とっくんが何を  
言うか待っています。まだ、間に合  
います。「じょうだんだよ。ジャ  
イアンは悪いよ。」と言えやすむ  
ことです。その言葉を言えたら、み  
んなとも、もとのようにな  
るかもしれません。でも、とっく  
んは言えないのです。どうし  
ても言えないのです。



「ジャイアンは、悪くないよ。」  
とっくんはおもいきりさけんだ後、ジャイアンと同じよう  
に、教室をとびだしていきました。  
「とっくん、までよー。」  
足長君の声が後ろから聞こえてきましたがおしです。最後に、  
涙声のよしこさんの言葉がつきささります。

「とっくんなんて、大嫌い。」  
よしこさんの言葉が背中にささったま  
ま、とっくんはそのまま走っていきま  
した。うわぐつのまま、外に向かっ  
て、走って行きました。  
つづく



どうしてジャイアンは悪くないのか。  
次回、そのなぞが明らかになります。

次回予告  
ジャイアンが  
悪くない理由